

外国語学部

荒川 みどり

講演

1. 荒川みどり:成人向け日本語教科書の教材用テキストにみる「満州」の都市労働者モデル. 日本文体論学会第109回大会, 三鷹, 2016年6月26日.
2. 荒川みどり:初級の指導一類義のモダリティ文型. 羽村日本語学習会日本語の教え方講座, 羽村, 2016年8月27日.
3. 荒川みどり:毎日が異文化体験!. 神奈川県立住吉高等学校, 川崎, 2016年10月13日.

岩本 和良

講演

1. 岩本和良:大学での学び,英語の面白さ. 正則高等学校, 東京, 2016年11月10日.
2. 岩本和良:意味を変えるイントネーション. 神奈川県立横浜立野高等学校, 横浜, 2016年11月17日.
3. 岩本和良:“I love you.”の意味って何?—イントネーションの重要性—. 千葉県立柏高等学校, 柏, 2017年2月16日.

宇佐美 貴浩

その他(学会等および社会における主な活動)

1. (企画・運営)写真供養感謝祭. 神奈川県鎌倉市浄智寺. 2016年11月11日.

楠家 重敏

講演

1. 楠家重敏:幕末の言語革命. 日本文体論学会第109回大会, 三鷹, 2016年6月25日.
2. 楠家重敏:イギリス公使館の通訳見習制度. 杏林大学外国語学部アカデミア, 三鷹, 2016年6月29日.
3. 楠家重敏:自著を語る『幕末の言語革命』. 日本英学史学会第507回例会, 東京, 2017年1月20日.

論文

1. 楠家重敏:イギリス公使館の通訳見習制度. 英学史研究 49: 55-70, 2016年10月.
2. 楠家重敏:<年譜>幕末在日外国人の日本研究史(1853年~1858年). 杏林大学外国語学部紀要 29: 133-205, 2017年3月.
3. 楠家重敏:幕末の言語革命. 文体論研究 63: 71-77, 2017年3月.

著書

1. 楠家重敏:幕末の言語革命. 京都. 晃洋書房, 2017年.

黒田 有子

論文

1. 黒田有子:メルヴィルの巡礼—『クラレル』のアメリカ人. 杏林大学研究報告教養部門 34: 113-121, 2017年2月.

齋藤 智志

論文

1. 齋藤智志:命の授業をどう構想するか—道徳授業教力向上のための方法の探究. 杏林大学教職課程年報 3:

17-29, 2017年3月.

その他(書評)

1. 齋藤智志:伊藤貴雄著『ショーペンハウアー 兵役拒否の哲学—戦争・法・国家』(晃洋書房, 2014年刊). 実存思想論集 31: 171-174, 2016年6月.

その他(団体役員)

1. (理事・協会誌編集委員)日本ショーペンハウアー協会
2. (理事・協会誌編集委員)日本ディルタイ協会
3. (幹事)実存思想協会
4. (委員)三鷹市社会教育委員会
5. (副会長)羽村市生涯学習審議会

坂本 ロビン

講演

1. 坂本ロビン:身近な国際人~外国に行かなくとも日本で国際人になれる~. 順天高等学校講演会, 東京, 2016年5月28日.
2. 坂本ロビン:A Japanese Research Agenda for Adapting to Changes in Internationalizing Higher Education. The Third Annual Conference on Global Higher Education at Lakeland College, 東京, 2016年6月4日.
3. 坂本ロビン:踏み出そう第1歩~世界とつながるコミュニケーション~. 公益財団法人三鷹国際交流協会(MISHOP), 三鷹, 2016年8月27日.
4. 坂本ロビン:Creating a Zest for Living through University-based Community Development. 第28回日米教員養成協議会年次大会(JUSTEC 2016), 松山, 2016年11月5日.

詹 満江

論文

1. 詹満江:大沼枕山『歴代詠史百律』に描かれた女性像. 杏林大学外国語学部紀要 29: 1-12. 2017年3月.

著書

1. 詹満江:高三十五書記を送る十五韻~重ねて何氏に過ぎる五首其の五. 杜甫全詩訳注1. 下定雅弘, 松原朗編. 東京. 講談社, 2016年. 185-242.

高木 眞佐子

講演

1. 高木眞佐子:『不思議の国のアリス』とオックスフォード. 杏林大学井の頭図書館ミニレクチャー, 三鷹, 2016年11月17日.
2. 高木眞佐子:日本における『アーサー王伝説』受容について. 杏林大学外国語学部アカデミア, 三鷹, 2017年2月14日.

論文

1. Masako Takagi:Characteristics of Casting-off Marks Used by Caxton: Comparison of Huntington HM136 and Vatican Vat. lat. 11441. Kyorin University Review 29: 45-55, 2017年2月.

その他(学会等および社会における主な活動)

1. 高木眞佐子:杏林大学—青梅市御岳山地域交流イベント「天空芸者ナイト」にて通訳・外国人アンケート(みたけ山商工会議所主催). 御岳山特設ステージ及び宿坊能保利, 2016年10月20日, 11月10日.

玉村 禎郎

講演

1. 玉村禎郎：社会言語学の現代的課題。八王子市学園都市大学いちょう塾講座，八王子，2016年5月20日。

論文

1. 玉村禎郎：和語と漢語の相補性—基本度から見た転成と借用—。新村出記念財団設立三十五周年記念論文集：69-81，2016年5月。
2. 玉村禎郎：外来語系形容動詞の名詞化—接尾辞「-さ」の下接化の諸因子—。近代語研究 19：179-196，2016年9月。

その他（学会等および社会における主な活動）

1. （研究分担者）仏教写本の総合的研究。龍谷大学仏教文化研究所。

その他（団体役員）

1. （評議員）（財）新村出記念財団

張 弘（宮首 弘子）

講演

1. 張弘（宮首弘子）：中国人から見た日本。生きがいつくりコーディネーター養成講座，三鷹，2016年10月12日。
2. 張弘（宮首弘子）：感染症医療通訳基礎トレーニングについて。感染症医療通訳基礎講座Ⅰ，横浜，2017年2月22日。
3. 張弘（宮首弘子）：感染症医療通訳基礎トレーニング（ロールプレアの指導）。感染症医療通訳基礎講座Ⅱ，横浜，2017年3月16日。

論文

1. 張弘（宮首弘子）：コンテキストの訳出方略から見る通訳者の主体性。杏林大学外国語学部紀要 29：13-34，2017年3月。

報告書

1. 北島勉・張弘（宮首弘子）ほか：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策事業「外国人に対するHIV検査と医療サービスへのアクセス向上に関する研究」28年度総括・研究報告書（研究代表者：北島勉），2017年3月。

その他（学会等および社会における主な活動）

1. （講義）医療通訳の基礎トレーニング。MICかながわ医療通訳現任者研修，横浜，2016年4月23日。
2. （講義）ことばが国境を越える—あなたの知らない通訳の世界—。神田女学館高等学校，東京，2016年6月23日。
3. （講義）中文リスニング&再現と天皇陛下ビデオメッセージの中訳演習。外務省，東京，2016年10月24日。
4. （講義）中文リスニング&再現と政治関連インタビューの中訳演習。外務省，東京，2016年11月14日。
5. （講義）中文リスニング&再現と日中関係関連インタビューの中訳演習。外務省，東京，2016年12月12日。
6. （講義）中文リスニング&再現と首相記者会見の中訳演習。外務省，東京，2016年12月19日。
7. （講義）中文リスニング&再現と政治関連インタビューの中訳演習。外務省，東京，2017年1月30日。
8. （講義）中文リスニング&再現と政治関連インタビューの中訳演習。外務省，東京，2017年2月6日。

その他（教育活動上特記すべき事項）

1. （共同発表）日中の学生協働によるゼミ交流・研究発表の経緯と成果。上海外大日本文化経済学院・杏林大学外国語学部の共同ゼミ発表，上海外国語大学松江キャンパス，2016年9月7日。
2. （共同発表）日中の学生協働によるゼミ交流・研究発表の経緯と成果。第7回グローバルシンポジウム，杏林大

学井の頭キャンパス，2016年9月10日。

3. （研修受入）天津外国語大学花超教授（2016年11月27日-12月3日）。

長谷川 弘子

論文

1. 長谷川弘子：ゲーテの『ドイツ避難民閑談集』（1795）とフォン・C男爵夫人の忠告—第一次対仏同盟戦争時における月刊文芸誌連載のある枠物語—。杏林大学研究報告教養部門 34：123-137，2017年2月。

嵐 洋子

その他（学会等および社会における主な活動）

1. みんなの音声プロジェクト（日本語音声教育・音声学の普及，情報共有を目的としたプロジェクト）

その他（教育内容・方法の工夫）

1. （研究代表者）科学研究補助金（若手研究（B））「英語教育と連携した日本語教師養成プログラム開発のためのデータベース構築と教育実践」
2. （研究分担者）科学研究補助金（基盤研究（B））「地域語によるコミュニケーションを支援する聞き取り学習システムの開発と方法論の構築」（研究代表者：馬場良二）

井手 拓郎

講演

1. Takuro Ide：Introduction Process of Tourism-based Community Development：The Onpaku Model Introduction Process in Japan as an Object of Study. 2016 International Conference of Asia-Pacific Planning Societies, Taiwan, 25-27th August 2016.
2. 井手拓郎：日本における観光まちづくり手法“オンパク”の導入実態—4事例の比較を中心に—。第41回まちづくり都市政策セミナー，東京，2016年10月22日。
3. 井手拓郎：三鷹市・羽村市・八王子市と杏林大学の協働ワークショップ「災害に備えるまちづくり：今みんなで考えること」ファシリテーション。第5回杏林大学・地（知）の拠点整備事業CCRCフォーラム，三鷹，2017年2月18日。

論文

1. 楠田美奈，場家美沙紀，井手拓郎，亀崎路子，佐々木裕子，大屋千鶴，山下真理子，赤嶺恵理，太田ひろみ：大学生と当事者の連携による発達障がい児の余暇活動支援の成果と今後の課題。平成28年度杏林大学杏林CCRC研究所紀要：23-27，2017年3月。
2. 井手拓郎：観光まちづくりにおけるリーダーの発達プロセスに関する研究—別府ハットウ・オンパクのリーダーを対象に—。観光研究 28-2：45-56，2017年3月。

その他（教育活動上特記すべき事項）

1. スポーツスタディ（ネイチャーキャンプ）。立教大学全学共通カリキュラムセンター。
2. （他大学出講）ウェルネス福祉演習。立教大学コミュニティ福祉学部。

北村 一真

論文

1. 北村一真：学習辞典・文法書の盲点となっているbe動詞の機能について。杏林大学研究報告教養部門 34：85-95，2017年2月。

関 美和

講演

1. 関美和: プロの翻訳者はこう訳す. 生きがいきりコーディネーター養成講座, 三鷹, 2016年7月13日.
2. 関美和: プロの翻訳者はこう訳す. 三鷹ネットワーク大学公開講座, 三鷹, 2016年11月5日.
3. 関美和: プロ翻訳者の仕事と生産性. 株式会社電通社員向け公開講座, 東京, 2016年12月19日.

著書(翻訳)

1. 関美和: レッドチーム思考一組織の中に「最後の反対者」を飼う. 東京. 文藝春秋社, 2016年.
2. 関美和: TED TALKS公式ガイド. 東京. 日経BP社, 2016年.
3. 関美和: お父さんが教える13歳からの金融入門. 東京. 日本経済出版社, 2016年.
4. 関美和: 大人の女の話し方. 東京. 海と月社, 2016年.
5. 関美和: 誰が音楽をタダにした?. 東京. 早川書房, 2016年.
6. 関美和: スタンフォードの脳外科医が教わった人生の扉を開く最強のマジック. 東京. プレジデント社, 2016年.
7. 関美和: なぜ僕たちは金融街の人びとを嫌うのか. 東京. 英治出版, 2017年.

千野 万里子

講演

1. 千野万里子: 観光で訪れた中国人に話しかけてみよう 1. 生きがいきりコーディネーター養成講座, 三鷹, 2016年9月14日.

著書

1. 千野万里子: 現代中国語に見られる近世中国語の影響—『紅樓夢』『儒林外史』を資料として—. 京都. 晃洋書房, 2017年3月.

鄭 英淑

講演

1. 鄭英淑: ことばから見る日本と諸外国との交流. 東京都立青梅総合高等学校, 青梅, 2016年7月15日.
2. 鄭英淑: 外国語学部系統別説明. 東京都立府中西高等学校, 府中, 2016年12月16日.

論文

1. 鄭英淑: 安政五カ国条約にみる新文明語彙の理解—外交関係語彙を中心に—. 杏林大学外国語学部紀要 29: 1-12, 2017年3月.

野口 洋平

講演

1. 野口洋平: 東京都の観光政策と観光資源. 東京都「おもてなし親善大使」育成塾, お茶の水, 2016年7月28日, 8月18日.
2. 野口洋平: 東京都の観光政策と観光資源. 東京都「おもてなし親善大使」育成塾, 立川, 2016年8月4日, 8月9日.
3. 野口洋平: 「観光のいま」を知るための5つのキーワード、5つのトピック. 公益財団法人高速道路調査会「平成28年度高速道路調査会研究発表会」, 名古屋, 2016年9月30日.
4. 野口洋平: 観光と交通. 東京シティガイド検定対策講座(東京観光財団), 東京, 2016年10月23日, 10月30日.

5. 野口洋平: 東京の観光. 東京都地域限定特例通訳案内士認定研修, 東京, 2017年1月23日.

論文

1. 野口洋平: モジュラー型商品としてのスケルトン型ツアー商品のインテグラル型への回帰. 杏林大学外国語学部紀要 29: 107-122, 2017年3月.

著書

1. 野口洋平: アミューズメント都市東京の一部, 国際観光都市「TOKYO」(以上、第1章「観光都市『東京』の今—東京の魅力を訪ねる—」内), 観光資源としての情報発信(以上、第6章「東京の産業—都市の経済活動を訪ねる—」内). 江戸東京まち歩きブック. 公益財団法人東京観光財団編. 東京. 中央経済グローバルパブリッシング, 2017年3月.

その他(団体役員)

1. (理事・広報委員長) 日本観光ホスピタリティ教育学会.
2. (委員) 中日本エクシス株式会社CS(顧客満足)評価委員会.
3. (委員) 東京シティガイド検定委員会作問部会.

八木橋 宏男

講演

1. 八木橋宏男: 社会言語学の研究史. 八王子市学園都市大学いちよう塾講座, 八王子, 2016年5月20日.
2. 八木橋宏男: 災害に備えるまちづくり《言語編》—災害時にはなぜ流言が流れるのだろうか?—. 八王子市学園都市大学いちよう塾講座, 八王子, 2016年5月27日.
3. 八木橋宏男: 災害と文体—災害社会学・言語学の観点から防災・減災・復興を考える—(日本文体論学会第109回大会研究フォーラム). 日本文体論学会第109回大会, 三鷹, 2016年6月26日.
4. 八木橋宏男: 論理表現に注目した日英比較. 第38回社会言語科学会研究大会ワークショップ(英語教育・国語教育と論理的思考—日英語比較, および過去30年間の国立大学入試問題分析からみる, 新指導要領への提言—), 京都, 2016年9月4日.
5. 八木橋宏男: ジブリ映画字幕翻訳から学ぶ異文化間コミュニケーション. 東京高等学校, 東京, 2016年10月12日.
6. 八木橋宏男: 世界の言語と文字の記憶—神と印刷を言語はどう見て来たか—. 富士ゼロックス株式会社 Document Service Forum全国発表大会, 横浜, 2016年11月11日.
7. 八木橋宏男: ライティング答案に現れる英語と日本語の論理. 日本英語学会第34回大会ワークショップ(英語指導要領の実施とその教育効果測定), 金沢, 2016年11月12日.
8. 八木橋宏男: 談話と言語単位の慣習化—“the reason is because”を事例として—. 成蹊大学アジア太平洋研究センター共同研究プロジェクト「認知言語学の新領域開拓研究—英語・日本語・アジア諸語を中心として」研究会, 武蔵野, 2016年11月19日.
9. 八木橋宏男: ジブリ映画字幕翻訳から学ぶ異文化間コミュニケーション. クラーク記念国際高等学校, 東京, 2016年12月16日.
10. 八木橋宏男: ジブリ映画字幕翻訳から学ぶ異文化間コミュニケーション. 東京都立松が谷高等学校, 八王子, 2016年12月21日.
11. 八木橋宏男: バイリンガル研究—バイリンガルとはどういう人のことを言うのか—. 八王子市学園都市大学いちよう塾講座, 八王子, 2017年1月28日.
12. 八木橋宏男: バイリンガル研究から日本の英語/国語教

育を考える。八王子市学園都市大学いちよう塾講座，八王子，2017年2月4日、18日、25日。

論文

1. 八木橋宏勇ほか：日英談話対照研究に基づく英語ライティング用教材の開発。杏林大学研究報告教養部門 34：97-112，2017年2月。
2. 八木橋宏勇：“the reason is because”は非標準用法か？。杏林大学外国語学部紀要 29：57-66，2017年2月。

報告書

1. (報告)地域交流委員会(石井博之，太田ひろみ，柴崎美紀，千田晋治，岡村裕，八木橋宏勇)：杏林 CCRC 構想における地域活動。平成28年度杏林大学杏林CCRC研究所紀要：105-115，2017年3月。

その他(学会等および社会における主な活動)

1. (記事)事実すべてを語らせること。日本ことわざ学会会報 84。2016年5月。
2. (企画・運営)ことばの使われ方(金田一秀穂教授講演会)。NPO法人地球ことば村—世界言語博物館・慶應言語教育研究フォーラム，東京，2016年6月11日。
3. (運営)日本文体論学会第109回大会。三鷹，2016年6月25日，26日。
4. (運営)認知言語学セミナー。東京，2016年9月9日。
5. (運営)日本認知言語学会第17回全国大会。東京，2016年9月10日，11日。
6. (記事)失われゆく言語を守る。慶應塾生新聞 526。2016年11月。
7. (記事)「ことば」は文化の根本。週刊教育資料 1408，2016年11月7日。
8. (企画・運営)少数話者(危機)言語・研究未開発言語研究の推進に向けて。NPO法人地球ことば村—世界言語博物館・慶應言語教育研究フォーラム・日本言語学会ワークショップ，東京，2017年1月22日。
9. (企画・運営)言語の多様性はなぜ必要か—少数話者(危機)言語の研究支援と言語の多様性に関する意識啓発。NPO法人地球ことば村—世界言語博物館・慶應言語教育研究フォーラム・日本言語学会シンポジウム，東京，2017年1月22日。
10. (企画・運営)世界ことば検定。MIFA交流フェスティバル(目黒区国際交流協会主催)，東京，2017年2月5日。
11. (監修・講師)大学生と学ぶ！はむら英語交流の集い—世代を超えて話そう！杏林大学生と一緒に「はむら」を簡単英語で紹介！。杏林大学学生連携企画，羽村，2017年2月26日。
12. (運営)第39回社会言語科学会研究大会。三鷹，2017年3月18日，19日。

その他(教育内容・方法の工夫)

1. (研究代表者)科学研究補助金(基盤研究(C))「用法基盤モデルに基づく英語ライティング用教材『プレート』の開発」
2. (研究分担者)科学研究補助金(基盤研究(C))「聖書イディオムの生成と翻案の通時的研究」(研究代表者：橋本功)
3. (研究分担者)科学研究補助金(基盤研究(C))「言語習得理論に基づく小学校英語教育のボトムアップ型学習モデルの構築」(研究代表者：菅井三実)
4. (研究分担者)科学研究補助金(基盤研究(C))「伝統的心性の自覚から異文化コーディネーターとしての成長を促す英語教育法研究」(研究代表者：遠山菊夫)
5. (研究協力者)博報堂財団・児童教育実践についての研究助成事業「用法依存理論に基づく小学校英語教育の学習モデル構築」(研究代表者：菅井三実)
6. (研究分担者)日本言語学会・言語の多様性に関する啓

蒙・教育プロジェクト助成「少数話者(危機)言語の研究支援と言語の多様性に関する意識啓発」(研究代表者：井上逸兵)

その他(団体役員)

1. (理事・事務局代表)日本認知言語学会
2. (広報委員)社会言語科学会
3. (運営委員・学会誌編集)日本文体論学会
4. (理事・企画検討委員会委員長・電子出版部編集長)NPO法人地球ことば村世界言語博物館
5. (外部委員)独立行政法人国際観光振興機構(日本政府観光局)

その他(教育活動上特記すべき事項)

1. (他大学出講)英語学Ⅲ・Ⅳ(認知言語学)。慶應義塾大学文学部。
2. (他大学出講)英語第Ⅰ。慶應義塾大学法学部。
3. (他大学出講)英語ライティング5。慶應義塾大学通信教育部。
4. (協力)英語で学び、考える 今日は何の日 around the world 世界のトピック 1月 2月 3月(町田淳子著、「国際母国語デー」に関する専門知識の提供)。光村教育図書株式会社。

イアン・ランバート

講演

1. Iain Lambert: World Englishes in the Japanese Classroom. JACET 55th International Convention, Sapporo, 1st September 2016.

論文

1. Iain Lambert: Discourse Analysis of newspaper editorials: An evaluation of the Bolivar model. 杏林大学研究報告 34: 75-84, 2017年2月。
2. Iain Lambert: Implemented or Unimplemented: The Lexical Approach Twenty Years On. 杏林大学外国語学部紀要 29: 35-44, 2017年3月。

赤嶺 恵理

講演

1. 赤嶺恵理: 子どもの性の商品化。熊本大学社会連携科目「子どもと人権」，熊本，2016年6月23日。
2. 赤嶺恵理: ポルノ被害をなくすために。社会連携科目「社会と人権」，熊本，2016年6月23日。
3. 武子愛，赤嶺恵理: 児童相談所における児童買春、児童ポルノ被害児童への対応。国立女性教育会館「男女共同参画推進フォーラム」，嵐山，2016年8月27日。
4. 赤嶺恵理: 児童買春、児童ポルノ被害等に対する支援の課題。日本子ども虐待防止学会第22回学術集会おおさか大会，大阪，2016年11月25日。
5. 赤嶺恵理: 「国際協力」「援助」について考えよう。順天高校SGH課題研究ワークショップ，東京，2017年1月21日。
6. 武子愛，赤嶺恵理: 児童相談所における児童買春、児童ポルノ被害指導への対応状況に関する報告。「性と健康を考える女性専門家の会」勉強会，東京，2017年1月28日。

論文

1. 楠田美奈，場家美沙紀，井手拓郎，亀崎路子，佐々木裕子，大屋千鶴，山下真理子，赤嶺恵理，太田ひろみ: 大学生と当事者の連携による発達障がい児の余暇活動支援の成果と今後の課題。平成28年度杏林大学杏林CCRC研究

所紀要 : 23-27, 2017年3月.

小林 輝美

講演

1. 小林輝美: オンライン英会話を取り入れた大学英語授業の実践と効果の検証. 日本教育工学会第32回全国大会, 大阪, 2016年9月18日.
2. 小林輝美: 大学の英語の授業を体験. 明和県央高等学校, 東京, 2016年10月24日.
3. 小林輝美: 自己の映像を利用したプレゼンテーション改善に関する研究—指摘方法の検討. 教育テスト研究センター成果発表会, 東京, 2017年2月28日.

論文

1. 小林輝美: 大学英語授業におけるオンライン英会話利用の効果. 杏林大学外国語学部紀要 29 : 67-94, 2017年3月.